

おくすり見える化シートの作成事業(R5)

令和5年度、(公社)福岡県薬剤師会に委託し、患者説明用の啓発資材(おくすり見える化シート)を作成し、実際に服薬指導に活用した。

《目的》

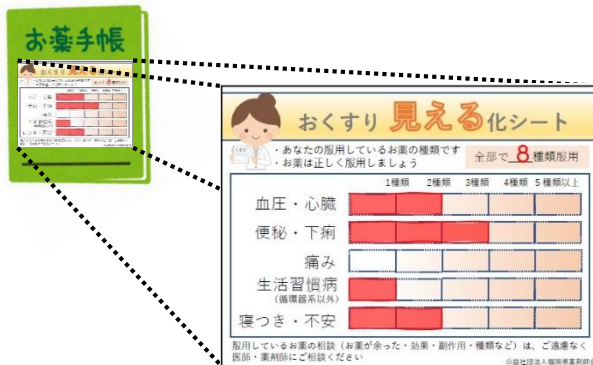
○お薬手帳は、文字による個別の医薬品情報の提供となるため、患者目線では、その都度のお薬情報を把握することは容易であるが、全体のお薬情報を把握することが難しい。そこで、患者の服薬情報について、薬効毎に何種類あるかを可視化するシート(「おくすり見える化シート」)を作成。これを薬局における服薬指導に活用する。

《対象》

- 患者背景: 定期的に来局する65歳以上、定期内服薬6剤以上服用中、複数回来局の患者
- 協力薬局: 県内4ブロック各20薬局の合計80薬局(薬局毎に患者10人)

《方法》

- 県薬剤師会にて「おくすり見える化シート」を作成(シール)、協力薬局に配布
- 各薬局で次のフローに従い患者ヒアリング等実施、処方適正化(減薬)へのアプローチを実施



- ①お薬手帳の表紙等に「おくすり見える化シート」を貼付、患者ヒアリングを実施、ポリファーマシーのチラシで説明、
- ②患者の再来局時、処方適正化(減薬)の希望有無のヒアリングを実施(患者希望なければこの時点で終了)
- ③減薬の検討可能※であれば追加ヒアリング、医師に情報提供・提案
※薬剤師の判断で減薬不可の場合、医師に情報提供を行い終了
- ④連携のもと処方適正化(減薬)に向けて対応

おくすり見える化シートの作成事業(R5)

《結果》

○男性40%、女性60%。内75歳以上約75%の協力が得られており、平均服用薬剤数9.17剤。

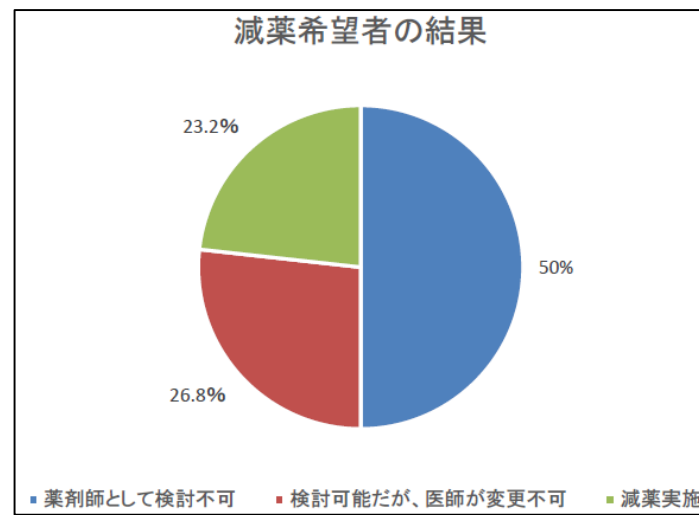
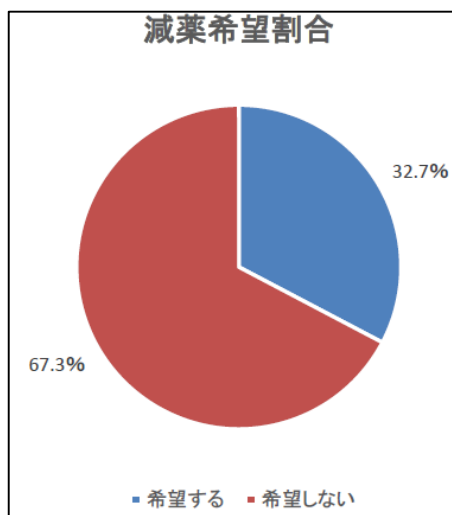
○有効データ697例中228例(32.7%)が減薬を希望し、内訳は以下のとおり。

「薬剤師として検討不可」114例(50.0%)、

「薬剤師として検討可能と判断したが、医師が不可と判断」が61例(26.8%)、

「薬剤師として検討可能と判断し医師も可能と判断し減薬実施」が53例(23.2%)、

全回答者の7.6%の減薬との結果が得られた。また減薬できた薬剤数は平均1.26剤。



《まとめ》

○実施期間が短期間(R5.11.13～R6.1.31)だったものの、ヒアリングの結果から、患者自身が服用する薬剤について、より積極的に関わろうとする行動変容に繋がったと考えられる。

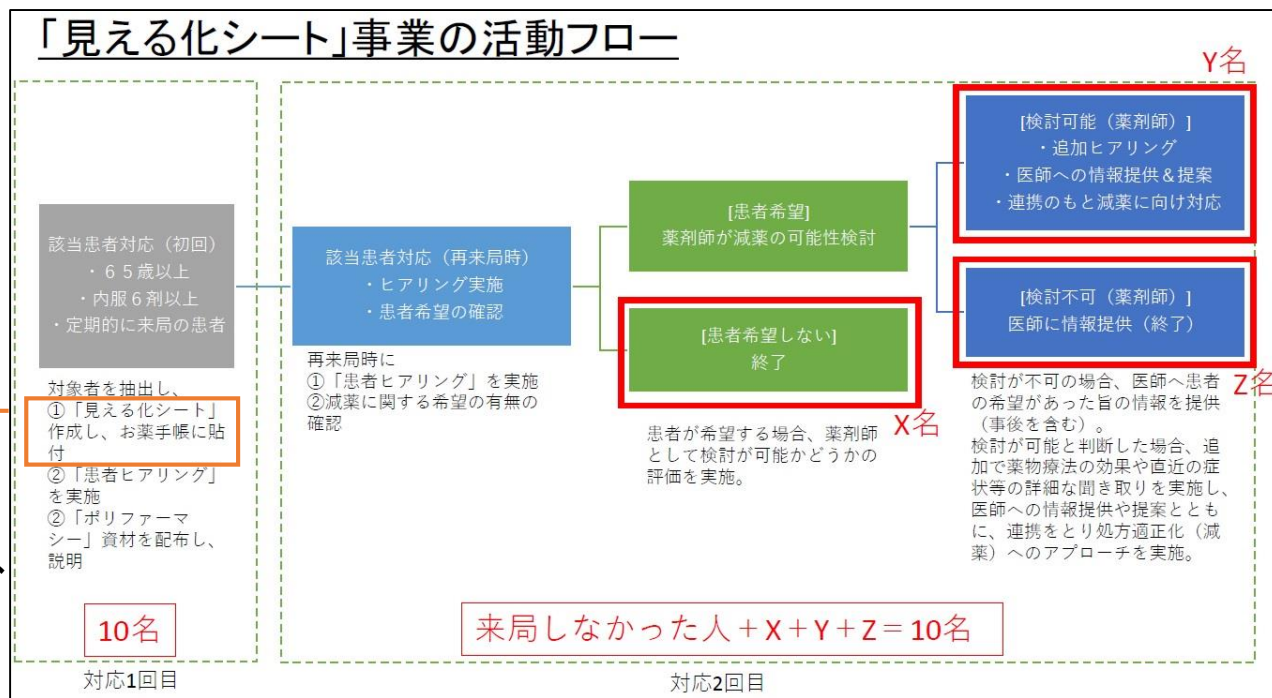
○患者発信を端緒とするポリファーマシー解消に効果が期待できると考えられる。

○おくすり見える化シートの検証

《令和6年度の取組み》

- 実施方針: 令和5年度に本協議会に諮ったおくすり見える化シートを活用し、**薬局での実質的な実施期間がより長期になるよう実施**する。
- 対象、規模: 県内4地域(北九州、福岡、筑後、筑豊)から各地域20薬局、合計80薬局程度、追跡する患者数1薬局あたり10人、合計800人程度を想定(令和5年度と同規模、同一薬局又は新規協力薬局)
- フロー中相違点: **効果がより確認しやすいよう対照群を設定**(おくすり見える化シートを使用しない群)し、患者ヒアリング等を通じ減薬の服薬の適正化(減薬等)に繋がったかを測定する。
- 学術的な場での公表も検討。

今年度はおくすり見える化シートを使用しない群も加え、効果を検証する。



| | 令和6年度(2024年度) | | | |
|------------------------|---------------|----------|--------------------------|------------|
| | 4月～6月 | 7月～9月 | 10月～12月 | 1月～3月 |
| 協議会 | | ● 第1回 | | ● 第2回 |
| おくすり見える化シートの 検証事業 | | | | |
| ポリファーマシー研修会 (多職種向け) | | | ● | |
| 電子処方箋導入促進 補助金事業 | | | | 1/31 まで |
| 啓発事業 | | | ● 啓発 「薬と健康 の週間」 | |